

第37回日釣連グレ釣りトーナメント大会 3位 三重県釣連盟 濱田 晃行



三重県釣連盟の濱田です。二年ぶりに開催された日釣連グレ釣りトーナメント。久しぶりのトーナメントに胸を躍らせて参加しました。

職場の理解もあり、休みを取れたので金曜日から開催場所の南紀勝浦、清丸渡船を訪れました。名手が出揃う日釣連トーナメント、練習なしでは勝てないだろうと湾内の丸島、カベの二か所で釣りました。木っ端が多いものの安定の釣果でタモ入れサイズをどうやって狙っていくか、という雰囲気でした。

明けて初日のリーグ戦、厳しい戦いでした。一回戦はラクダで匹数では勝ったものの重量負け。二回戦は福井のハナで一匹ずつながら重量勝ち。三回戦も一匹ずつの重量勝ちで二勝一敗が三人並ぶ大接戦。ポイント差で運よく次の日に繋げる事が出来ました。前日によく釣れた事もあり、ここまで厳しい戦いになるとは想像できませんでした。

二日目の準々決勝。同じ三重県釣連盟の小谷君との勝負となり、鶴島のカベで前半先行出来てそのまま逃げ切りで勝利。前日とは違って魚が動いてはくれるが厳しい印象だった。

運命の準決勝。舞台は伝五郎低場で魚は

出るが厳しい釣りとなる予想で兵庫の西村さんとの対戦。じゃんけん負けで船着き側のスタート。シケ島向きに入った西村さんのポイントはサラシが広範囲に広がり、自分の苦手なシチュエーション。前半で厳しい中でもどれだけ釣果を出せるか、という試合でした。

試合が始まると予想とは違って一投目から二人共グレが掛かってくる展開。ただ自分はマイクロ尾長で西村さんはタモ入れサイズ、といきなりの先制パンチを喰らってハートの弱い自分は終始落ち着きのない釣りとなってしまいました。

先行をされたままの後半戦。潮が引いてサラシの広がりも小さくなってはいるものの正面からの強風で釣り辛い。しかも海面には切れた海藻が漂っていてポイントが限られる厳しい状況。サイズアップを狙うにはハードルが高く焦りだけが募っていきました。それでもなんとか一枚タモ入れサイズを出せたことで一矢報いる事が出来ました。

奇跡よ起きてくれ、と願った検量ですが思いのほか差が無く、3405g対3410g！なんと5グラム差で負け。平静を装いましたが頭の中は真っ白でした。反省点が沢山あって僅差ではあったものの納得の負け試合でした。

連盟に入会して24年。トーナメントデビューしたのが日釣連でした。長い年月をかけてやっとの思いでここまで来ました。年齢や在籍期間を考えると陰から支える役回りや頑張る存在です。ですがやめられません。試合でのわくわくドキドキがたまり

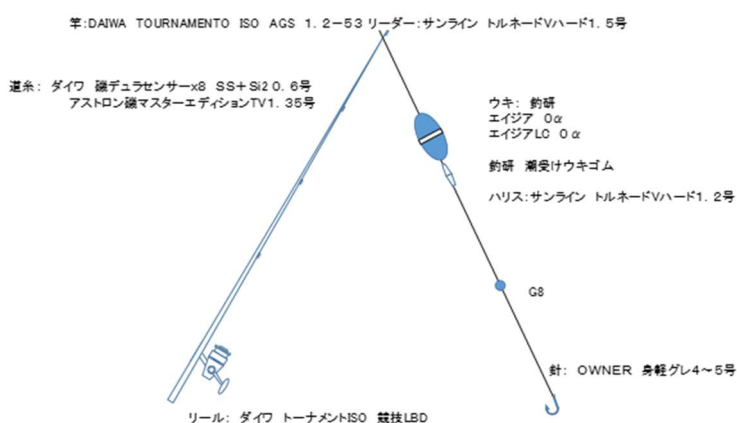
ません。この歳になっても24年前と気持ちは変わらないのです。

歴史のある日釣連のトーナメントで一度でいいから頂点に立ちたい気持ちが抑えられません。もうダメだ、と思うまで追いかけたいと思います。

大会運営をされた役員の皆様。清丸渡船の皆様ありがとうございました。久しぶりの大会を楽しむ事ができました。

大会に参加された各連盟の皆様、また来年も会えることを楽しみにしています。ありがとうございました。

タックル仕様



竿: がまかつ スーパープレシード 125-50
リール: ダイワ トーナメント ISO 競技 LBD
ウキ: ソルブレ Gアロー 0
道糸: アトミックスライダー磯 アーデント
ピンク 1.5
ハリス: 釣研ウルトラフレキシブル 1.2
針: がまかつ 一刀グレ 4~6号